



HYCレース 本部船運営マニュアル

〈レース当日の準備〉

- 1 午前 8 時 30 分に福岡市ヨットハーバー(小戸)2 階の「クルーザー・オーナーラウンジ」に集合。
- 2 事務局より受付用品一式が入った黒のバッグを受け取る。
(中には、受付ノート(記録用紙兼ねる)、出艇申告書、筆記具、領収書、釣銭、電波時計など)
- 3 先ず最初に、レース委員長と相談のうえ、当日の気象条件を勘案してコースを決める。
コースが決まったら、「HYC 専用特製ボード」にコース、受付時間、スタート時間、本部船名など必要事項を書き込む。(マリノアや今津からの参加艇は、9 時前には受付に来られるため)
- 4 リミットマークや各種信号旗、フォグホーン、メガホンなどの運営用品を船に積み込む。
(マークと信号旗はセーリングハウス裏の倉庫、ホーンやメガホンは船具箱に収納)
- 5 受付時間は 9:00~10:00。8:55 頃と 9:30 頃に 1 階事務室の放送設備を借用して受付のアナウンスを行う。
- 6 公式時計は受付用品の中にある「電波時計」を使用するので、受付テーブルに出しておく。
- 7 受付時に領収書を求められたら領収書を発行する。
- 8 10:00 に受付を終了したら、ハーバー事務所に「行事開催届」と「出港届」を提出し、スタートライン設置のため出港する。出港時点からマスト上方に大きな HYC 旗を掲揚しておく。

〈スタートライン設置〉

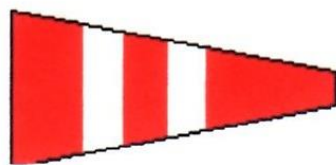
- 1 スタートラインは、ディングーなど他の競技や練習の邪魔にならないように設置する。冬場は小戸ハーバー前の海面に「海苔網」が設置されるので(11 月~3 月)特に注意すること。
- 2 スタートラインの設置は、遅くともスタート 20 分前(10 時 40 分)に完了すること。
- 3 スタートライン設置予定海面に来たらリミットマークを打つ。水深を確認してアンカーラインが長いようだったら投下前にラインの長さを調節しておく。ブイ投下後、アンカーが効いていることを確認するとともに(強風時やうねりが高いときに、たまにマークが流されることがあるので注意)、海面にラインが流れていないことを確認する(レース参加艇がラインを引っ掛けないため)。
- 4 マークが落ち着いたら本部船を移動させ、当日の風向を考慮して本部船を停泊させる。この際、風向が北西~北東方向なら概ね玄界島方向に対して直角になるようにスタートラインを設置する。東方向ならスタートラインが右下がりになるように本部船を岸寄り(小戸)に下げてアウター

(リミットマーク)有利にする。逆に西方向ならラインが左下がりになるように本部船を沖合に出して停泊させる。

- 5 スタートラインの長さは当日の風速にもよるが、概ね艇の全長×参加艇数を目安とする。
(15 艇参加ならば、艇の全長が平均 10m×15 艇=150m)
- 6 本部船を停泊させたら、アンカーが効いていることを必ず確認すること。特に荒天で風が強く、うねりが高い時は走錨することもあるので要注意。また、スタート時にレース艇が本部船に接触・衝突するのを避けるため、船尾から2~3mのラインを付けてフロート(フェンダーでも可)を流しておく。スタートラインの設置が完了したら、マストに掲揚しているクラブ旗(HYC 旗)を一旦降下してスタート手順に備える。

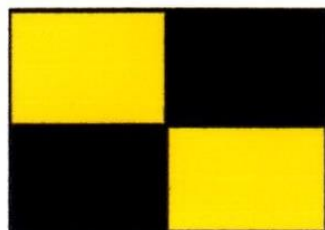
〈スタート手順〉

- 1 スタートラインの設置が終わったら、本部船乗り組みスタッフの役割を再確認する。
マストに1名(ハンドマイクを持つ)、時計秒読み・記録係1名(フォグホーンを持つ)、フラッグの掲揚・降下係1~2名。
- 2 参加申込みをしている艇がすべてスタート海面付近に集合していることを確認する。
もし足りないときは、携帯電話でレース参加の意思を確認する。
レース参加以外のヨットがスタートライン付近にいた場合は、レース開催中をアナウンスして海面を空けていただくように丁重にお願いします。
- 3 通常は、スタート時刻は「午前 11 時」とする。何らかの理由で定刻のスタートが困難な場合は、長音一声(3~5 秒間)とともに延期信号(回答旗)を掲揚する。
回答旗降下後、1 分後に長音一声(3~5 秒間)とともに予告信号を上げてスタート手順に入る。



回答旗

※ 回答旗の代わりに「L 旗」を上げる場合もある。この場合、L 旗掲揚後の丁度1分後に長音一声(3~5 秒間)とともに予告信号を上げてスタート手順に入る。



L 旗

4 予告信号:スタート5分前(午前10時55分)

HYC旗 UP(旗が揚がりきった時が丁度5分前) & 長音一声(3~5 秒間)



HYC旗

5 準備信号:スタート4分前(午前10時56分) これよりレース中のためエンジン停止

P 旗 UP & 長音一声(3~5 秒間) ※HYC 旗は上げたまま



P 旗

6 スタート1分前:P 旗 DOWN & 長音一声(3~5 秒間)

7 スタート:HYC旗 DOWN & 長音一声(3~5 秒間)

8 スタートラインは、リミットマークと本部船のマストを結ぶラインである。スタートの瞬間に船体の一部でも(セールも含む)ラインを越えていたらその艇はフライングとなりリコールされる。その判定をするために、本部船のマスト横に立ち、リミットマークを見通してフライングを判定する。

9 リコール艇がなく全艇がスタートラインを切った時は、ハンドマイクで「オールフェア！」の声を発する。

もしスタートに遅れた艇がいたら「20分間」は待ち、それ以降は DNS とする。

リコール

★ リコール艇名確認可能 ⇒ X旗 UP & 長音一声(3~5 秒間)を発するとともにハンドマイクでリコール艇の艇名を告げる。そして再スタートをしてリコールを解消した艇には、ハンドマイクで「〇〇艇、リコール解消！」と告げる。

リコール解消もしくは10分後にX旗 DOWN する。



X 旗

★ 確認不能艇あり ⇒ 直ちに第1代表旗 UP & 長音二声(3~5 秒間) : ゼネラルリコール



第1代表旗

ゼネラルリコール(ゼネリコ)

- ★ 基本は、本来のスタート時刻の10分後に再スタート(午前11時10分)
ただし、参加艇の復帰状況により臨機応変に対応する。
 - ★ 第1代表旗を掲げ、スタート6分前の11時4分に第1代表旗 DOWN & 長音一声
 - ★ 第1代表旗 DOWN 後、正確に1分後(11時5分)に5分前の予告信号を発する。
 - ★ 後は、通常のスタート手順に準じる。
- もしスタートに遅れた艇がいたら「20分間」は待ち、それ以降は DNS とする。

〈レース・フィニッシュ手順〉

- 1 全艇スタート後は、レース艇のフィニッシュまで特に作業等もないのでフリータイムとする。
- 2 フィニッシュラインは、確実性を期すためスタート時よりもラインを短めに設置し直す(概ね80m程度。リミットマークはそのままで本部船を移動。)。また、ラインは最終レグに直交するように向きを調整し、本部船を左に見てフィニッシュするようにアンカリングする。この時、風向は考慮しなくてよい。
- 3 レース艇が本部船を視認できるように、マストの高い位置に HYC 旗を掲げておく。
- 4 フィニッシュは、船体の一部がフィニッシュラインを越えたときで(スピナーカー、ジェネカーも船体の一部とみなす)、短音一声を発する。
- 5 記録係は、艇名とフィニッシュ時刻を記録用紙に書き込む。
- 6 レース途中に、レース艇から「リタイヤ」の連絡を受けたら、聞ける範囲でリタイヤの理由を尋ね記録用紙にその旨記録する。
- 7 レース艇から抗議の意思が示された場合は、HYC では講義を受け付けない旨を説明する。ただし、抗議の内容は把握し、記録用紙にメモしておく。
- 8 全レース艇がフィニッシュしたら本部船のアンカーを揚げ、リミットマークを回収して帰港する。
- 9 朝受け取った受付用品一式が入った黒バッグを事務局に返却する。
また、リミットマークや各種信号旗、フォグホーン、メガホンなどの運営用品は元の場所(倉庫や船具箱)に返却して本部船運営業務終了。